

## 神奈川県での出産費用はいくら？

2024年8月1日

調査部 上席主任研究員 清水 徹

### 「出産ナビ」が公開され、施設の出産費用が把握できるようになった

2024年5月、厚生労働省は、妊婦やその家族が出産施設を探しやすくするために、「出産ナビ」というサイトを公開した。

従来は出産を控えた妊婦や家族が出産施設を探す際には、個々の施設の情報を一つ一つ調べる必要があった。これに対し、「出産ナビ」では出産施設を地図上や市区町村ごとの一覧から探し、個々の施設のサービス内容や出産費用の目安などを確認することができる。

正常分娩（帝王切開などの処置を必要としない出産）は公的医療保険が適用されない自由診療であるため、施設によってサービス内容や費用が異なる。そうした中で、同一のフォーマットで個々の施設の情報を比較できることは、妊婦や家族にとって有用であろう。

ただ、出産施設の比較を行う際には、個々の施設だけでなく、施設全体でみた費用の目安があった方が便利である。そこで、本稿では、神奈川県で出産する際の費用の平均値を確認した。

### 2022年度の出産の基本的な費用は約55万円

まず、既存調査の結果を確認する。厚生労働省の調査結果によると、神奈川県内の施設における、2022年度の「正常分娩の基本的な費用」の平均値は約55万円だった。東京都（約61万円）に次いで全国で2番目に高く、全国平均（約48万円）よりも7万円近く高い。

このデータは既に報道でも紹介されており、出産費用の一応の目安にはなるが、室料差額（個室を利用する際の差額）やその他の医療外費用等が含まれていないため、総額がわからない。また、無痛分娩（麻酔によって陣痛の痛みを和らげる分娩方法）の有無別の比較や施設類型別の比較ができないといった限界がある。

### 2023年度の出産の基本的な費用は56万円、総額は63万円

そこで、浜銀総合研究所では、「出産ナビ」のデータを用いて、神奈川県内の施設の出産費用の集計を行った。

その結果を次頁の図表に示した。神奈川県内の施設における、2023年度の正常分娩の「基本的な費用」の平均値は56万円、これに室料差額やお祝い膳などの医療外の費用を加えた「費用の総額」の平均値は63万円だった（なお、この値は施設全体の値であり、無痛分娩に対応している施設と対応していない施設の費用が混在していることに留意が必要である）。つまり、神奈川県内の施設

で出産する場合、平均すると総額で63万円がかかるということである。出産の際には出産育児一時金50万円が加入している公的医療保険から支給されるが、実際の出産費用はそれを大きく上回るといえる。

図表 神奈川県内の施設における正常分娩の費用の平均値（2023年）

| 基本的な費用 |          |    |    | 費用の総額 |          |    |    |
|--------|----------|----|----|-------|----------|----|----|
| 単位：万円  |          |    |    | 単位：万円 |          |    |    |
|        | 無痛分娩への対応 |    | 総計 |       | 無痛分娩への対応 |    | 総計 |
|        | あり       | なし |    |       | あり       | なし |    |
| 病院     | 56       | 49 | 53 | 病院    | 64       | 57 | 61 |
| 診療所    | 59       | 59 | 59 | 診療所   | 68       | 64 | 67 |
| 助産所    | -        | 54 | 54 | 助産所   | -        | 59 | 59 |
| 総計     | 58       | 54 | 56 | 総計    | 66       | 59 | 63 |

注1：集計値は、各施設における平均的な出産費用の単純平均である。

注2：「基本的な費用」に含まれる費用は、「入院料」、「分娩料」、「新生児管理保育料」、「検査・薬剤料」、「処置・手当料」、「一部負担金等」。「費用の総額」はこれに、「室料差額」、「産科医療補償制度の掛金」、「お祝い膳など医療外の費用など」を足したものである。

注3：助産所とは、助産師が妊婦の健診、分娩、産後のケアを行う小規模な施設である。医師がいないため無痛分娩は行えない。

注4：無痛分娩への対応「あり」は、「希望による無痛分娩可能」または「医学的適応のみ対応可能」としている施設。無痛分娩に対応している施設の費用には無痛分娩を行った人の費用が含まれているため、対応をしていない施設に比べて出産費用は高くなる。

出所：厚生労働省「出産ナビ」より浜銀総研作成

## 自然分娩の場合、基本的な費用は54万円、総額は59万円

ところで、出産費用は、分娩方法が無痛分娩か自然分娩かによって大きく異なる。麻酔を伴う無痛分娩では、自然分娩よりも10～20万円程度費用が高くなる。前述の「基本的な費用」56万円、「費用の総額」63万円には、無痛分娩により出産した人<sup>1</sup>の費用も含まれているため、自然分娩の費用に比べて高めの額となっている。そこで、無痛分娩に対応していない施設に限ってみると、「基本的な費用」は54万円、「費用の総額」は59万円だった（図表、無痛分娩への対応「なし」の列の最下段）。自然分娩による出産を希望する場合は、この数字が費用の目安となる。

## 費用の目安を踏まえた上での施設選びを

実際の出産費用は、分娩方法のほか、施設のタイプ（病院、診療所、助産所）や、個室の有無、施設の立地などによっても異なってくる。施設選びにおいては、費用、施設へのアクセス、サービス内容などを総合的に勘案することが必要である。本稿で示した出産費用の目安が、費用とサービス内容等のバランスを考慮して施設選びをするための一助になれば幸いである。

<sup>1</sup> 全国の2020年9月時点の無痛分娩による出産件数の割合は、病院と診療所における出産件数全体の8.6%である（厚生労働省「令和2年医療施設調査」）。

## 執筆者



清水 徹

[t-shimizu@yokohama-ri.co.jp](mailto:t-shimizu@yokohama-ri.co.jp)

調査部 上席主任研究員

医療・介護、調剤薬局等を担当

## 執筆者の関連レポート

○HRIテーマレポート No.1 「2024年度介護報酬改定のポイント」

[https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/pdf.html?pdf=report240408\\_shimizu](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/pdf.html?pdf=report240408_shimizu)

浜銀総合研究所では、景気動向や産業動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 [https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry\\_repo.html?nno=5](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5)

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願いいたします。